

授業科目名	デスティネーションマネジメント論	担当教員 大社 充	
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2 年 第3 クオーター		
講義内容	「観光立国」を掲げるわが国において、訪日外国人の急増、観光による地方創生といった背景により、デスティネーション・マネジメント（観光地域経営）の必要性が認識されるようになり、観光庁では観光地域づくり法人（DMO）の登録制度を設け、その形成・確立に向けた支援に取り組んでいる。わが国においてデスティネーションマネジメントを具体的に実践していく手法については体系的に整理されていないが、本講座ではデスティネーションマネジメントの概念を整理した上で、持続可能性や安全管理、交通マネジメントなど複数の要素に分解し、それら要素ごとにデスティネーションマネジメント事業の考え方と具体例を学ぶことを目的とする。		
到達目標	デスティネーションマネジメントの基本概念を理解する。そして、デスティネーションマネジメントの構成要素を整理し、要素ごとに事例を通して実践的な手法を学ぶことで観光地経営の方法論を理解する。また地域における（DMOによる）デスティネーションマネジメントのケースメソッドを活用して、その思考方法を身に着けることとする。		
授業計画	第1回 デスティネーションマネジメントの基本的な考え方 第2回 「持続可能な観光」とデスティネーションマネジメント 第3回 地域の外に向かって マーケティングとセールス、そしてブランディング 第4回 特定市場とデスティネーションマネジメント （スポーツツーリズム・MICEなど） 第5回 地域の内に向かって① 安全管理とリスクマネジメント 第6回 地域の内に向かって② 景観政策とまちづくり 第7回 地域の内に向かって③ 交通マネジメント 第8回 地域の内に向かって④ ユニバーサルツーリズム 第9回 地域の内に向かって⑤ コンテンツ開発 第10回 地域の内に向かって⑥ その他の事業促進環境の整備 第11回 地域の内に向かって⑦ 官民連携の考え方とその実際 第12回 振返り／デスティネーション実習（3年次）に向けて		
事前・事後 学習	観光地というものがどういう要素から成り立っているのかを事前に考えておくこと。そして学習後は、デスティネーションマネジメントの観点から観光地を眺めたとき、必要とされる要素の過不足を見極められるように		

	などで、本講座で学んだ内容を実践的に理解できるようになることを期待したい。
テキスト	特になし
参考文献	授業を進めながら学生の興味関心に沿って参考文献を提示する
成績評価の基準	授業態度（40%）、レポート（60%）
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	観光分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	